**職務経歴書**

2025年4月1日現在

佐藤 真由美

**■職務要約**

　急性期・回復期を中心とした2つの病院で、通算8年間の看護師経験があります。1つ目の病院では内科・外科混合病棟での全身管理や術後ケアを経験し、2つ目の病院では脳神経外科・整形外科病棟でのADL回復支援に携わってきました。いずれの現場でも、患者様とご家族の不安に寄り添う看護を意識し、医師や多職種との連携も大切にしてきました。

**■職務経歴**

医療法人〇〇会 総合病院（在籍期間：2016年4月～2020年3月）

病床数：350床／配属：内科・外科混合病棟（38床）／看護配置：7対1

|  |  |
| --- | --- |
| 期間 | 職務内容 |
| 2016年4月〜2020年3月 | 【担当業務】・急性期患者の全身管理（バイタル測定、点滴管理、経管栄養、人工呼吸器管理補助）・術後患者の観察・疼痛コントロール・創傷処置・入退院対応、看護記録、夜勤（月4〜5回）【心がけたこと】術後の急変リスクがある患者様も多かったため、日々の観察に加え、小さな変化も報告・記録を徹底し、チームでの情報共有に注力していました。【学んだこと】患者の状態が急変するリスクを常に意識しながら、安全で正確な処置を行う重要性を学びました。また、看護師同士の連携だけでなく、医師との密な情報共有が医療ミスの防止につながることを実感しました。 |

医療法人□□会 リハビリテーション病院（在籍期間：2020年4月～現在）

病床数：200床／配属：脳神経外科・整形外科病棟（40床）／看護配置：13対1

|  |  |
| --- | --- |
| 期間 | 職務内容 |
| 2020年4月〜現在 | 【担当業務】・脳卒中・大腿骨骨折後のADL回復支援、転倒予防ケア・リハビリ計画への参加と生活指導、福祉用具の選定支援・ご家族との面談・退院調整、カンファレンス参加【心がけたこと】“できることを奪わない”ことを意識し、患者様の生活背景に応じた介助レベルを調整。精神面への声かけも重視し、前向きなリハビリ参加につなげました。【学んだこと】高齢患者が主体的に生活を取り戻すためには、精神的なサポートや家族への支援が欠かせないと学びました。単に看護を提供するのではなく、生活者としての視点を持つことの重要性を感じました。 |

**■活かせる経験・スキル**

・急性期〜回復期の看護経験（合計8年）
・術後管理から在宅復帰支援まで一連の流れを経験
・チームリーダー経験（指導・情報共有・夜勤リーダー）
・正看護師免許（2016年取得）

**■自己PR**

　私は、患者様やご家族の気持ちに寄り添いながら、安心できる関わりを意識してきました。
　たとえば、転倒後にリハビリに消極的だった高齢患者様に対しては、毎日短時間でも会話を重ね、不安や不満を傾聴。その結果、少しずつ運動に前向きになり、目標の2週間前倒しで退院につながったケースもあります。
　また、多職種との連携においては報告・相談を迅速に行い、看護師間だけでなく全体のチームワークを意識した関わりを大切にしています。
　これまでに培ってきた傾聴力と連携力を活かし、貴院においても安心できる医療環境づくりに貢献してまいりたいと考えております。

参考

看護師の職務経歴書で意識したい5つのポイント

**① 病棟の種類や病床数はできるだけ具体的に書く**

担当してきた分野の専門性や業務量が伝わりやすくなります。

【例】「脳神経外科・整形外科病棟（40床）」

**② 勤務体制（看護配置・夜勤回数など）も記載する**

環境の厳しさや責任の重さを示す情報として、看護基準や夜勤回数は有効です。

【例】「看護配置：7対1、夜勤：月4回」

**③ 「心がけたこと」で看護姿勢を伝える**

患者との向き合い方や大切にしている姿勢が伝わる内容にしましょう。

【例】「小さな変化も見逃さない観察を意識」

**④ 「学んだこと」で成長や気づきをアピールする**

数字での実績が出しにくい職種でも、経験からの学びを丁寧に書けば十分なアピールになります。

【例】「医師との情報共有が安全な医療につながると実感」

**⑤ チーム内での連携・指導経験も書く**

チームで働く姿勢や貢献が伝わる経験は、必ず書きましょう。

【例】「多職種カンファレンスに参加し、退院支援に関与」